

「南古谷中学校におけるSDGs」

校長 中村健二

1 はじめに

最近、テレビなどで「SDGs」という言葉を耳にします。「SDGs」とは「Sustainable Development Goals」のことで、「持続可能な開発目標」と訳されています。本校の「目指す学校像」を今年度から「コミュニティ・スクールの特色を生かし SDGsの充実を視野に入れた 温もりのある学校」としました。また、今年度のPTA 成人教育委員会の「学習テーマ」が「心身ともに学ぼう」。そして、活動目標が「豊かな心で健やかな毎日を過ごそう」と伺いました。日頃から子供たちのために支援をしてくださる保護者の皆様は「心身ともにリラックスしたい」ところだと思いますが、「心身ともに学ぼう」と「学ぶ」ことをテーマとされましたことに対して敬意を表します。そして活動目標を「豊かな心で健やかな毎日を過ごそう」と「豊かな心」を目標とされました。「SDGs」の取組はまさに「心を豊かにする」取組です。本校における「SDGs」について述べたいと思います。

2 「SDGs」とは

「SDGs」は「持続可能な開発目標」と紹介いたしましたが、その内訳を見てみますと、17の目標から成り立っています。17の目標を紹介します。

- (1) 貧困をなくそう
- (2) 飢餓をゼロに
- (3) すべての人に健康と福祉を
- (4) 質の高い教育をみんなに
- (5) ジェンダー平等を実現しよう
- (6) 安全な水とトイレを世界中に
- (7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- (8) 働きがいも 経済成長も
- (9) 産業と技術改革の基盤をつくろう
- (10) 人や国の不平等をなくそう
- (11) 住み続けられるまちづくりを
- (12) つくる責任 つかう責任
- (13) 気候変動に具体的な対策を
- (14) 海の豊かさを守ろう
- (15) 陸の豊かさも守ろう
- (16) 平和と公正をすべての人に
- (17) パートナーシップで目標を達成しよう

3 本校における「SDGs」

17の目標の中で最も教育に関係するのは「(4) 質の高い教育をみんなに」の部分です。「(1) 貧困をなくそう」や「(2) 飢餓をゼロに」など中学生においては荷が重いと思われる目標もあります。しかしながら、中学生がこのようなことを考えることは決して無駄ではありません。中学3年生は15歳になる年です。3年後には選挙権が与えられます。今から、世界の状況を知ったり、政治の成り立ちを知ったりすることはよい学習の機会となりますし、選挙権をもつ前の事前の準備にもなります。私は中学生は大人になるための準備期間と考えています。高校生も同じですが、高校3年生になる年には選挙権が与えられることから、もう大人と考えてもおかしくはありません。一見、難しそうに見える目標もありますが、それを中学生が考えられる範囲に、また、できる範囲に落とし込めば、他の目標も十分に価値があると考えます。

たとえば、「(3) すべての人に健康と福祉を」では、生徒たちに健康について考えさせることができます。夜遅くまでスマホを見ていることは健康に悪影響を与えます。おそらくほとんどの生徒は知識としては理解しているはずですが、しかし、つい遅くまで時間を取られてしまう中学生は全国的にも大勢いるようです。本校の生徒にはそうなってほしくありませんので、生徒自ら考え行動に移せるようにしてほしいと思います。

また、「(5) ジェンダー平等を実現しよう」は、必要な性差と不必要な性差を考える機会になります。「(6) 安全な水とトイレを世界中に」ですが、私たちはすでに安全な水を手に入れています。では、安全な水を世界中の人が手にするために、自分たちができることを考えてみたり、トイレの清潔さを保つために、どのようなメンテナンスを含んだ清掃の仕方にも考えてみたりするのも学習であると思います。そして、本校のトイレが更に綺麗になることは素晴らしいことであると考えます。「(7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに」では、不必要な電力の使用について考えることができます。「(8) 働きがいも 経済成長も」では、「働く」を「学習」に置き換えることができますし、「経済成長」は「自分自身の成長」に置き換えることもできます。「(9) 産業と技術革新の基盤をつくろう」では、自分の生活の基盤をつくることを考えられますし、「(10) 人や国の不平等をなくそう」は、人とのかわり方について考える機会と捉えることもできます。「(11) 住み続けられるまちづくりを」では、住み続けられる南古谷中学校、つまり、過ごしやすい南古谷中学校に、「(12) つくる責任 つかう責任」では、学校のもの自分のもので区別やその使い方について考えられます。「(13) 気候変動に具体的な対策を」「(14) 海の豊かさを守ろう」「(15) 陸の豊かさを守ろう」では、自分自身ができる取組について考えてほしいと思います。たとえば、多量の焼却物を排出することで、二酸化炭素濃度が上がり地球温暖化に影響を与えることが懸念されます。また、私は毎朝、校地内のごみを拾っていますが、その中にはプラスチックの容器や不織布のマスクなどがあります。プラスチックを放置すれば、いずれは細かくなり、マイクロプラスチックとして川を流れ、海に到達し、海の生物に影響を及ぼすことも考えられます。不織布のマスクは鳥の足に絡んだり、陸上の生物が誤食したりすることも考えられます。「(16) 平和と公正をすべての人に」については、友達とのかかわり方を学習し、「(17) パートナリシップで目標を達成しよう」については、友達や私たちを支えてくださる人や組織との望ましい関係を築くことが考えられます。

4 PTA 活動とのかかわり

PTA 活動の中には、資源回収などがあります。この活動は、本来廃棄されるべきものが資源として再利用されることから、環境に関するすべての項目、たとえば、「(2) 飢餓をゼロに」「(6) 安全な水とトイレを世界中に」「(7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「(13) 気候変動に具体的な対策を」「(14) 海の豊かさを守ろう」「(15) 陸の豊かさを守ろう」に関連付けられると考えます。

また、今年度のPTA 成人教育委員会の「学習テーマ」が「心身ともに学ぼう」。そして、活動目標が「豊かな心で健やかな毎日を過ごそう」ということから、「(4) 質の高い教育をみんなに」や「(8) 働きがいも 経済成長も」に関連付けられると考えられます。そして、今回の家庭教育学級は、ホームページへの掲載ということでペーパーレス化が図られますので、視点を広げれば「(7) エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「(13) 気候変動に具体的な対策を」「(14) 海の豊かさを守ろう」「(15) 陸の豊かさを守ろう」に関連付けられると考えます。

5 おわりに

今からおよそ30年前、学校教育において「環境教育」という言葉が浸透しはじめました。このことについて多くの学校がさまざまな取組を行いましたが、継続が難しい取組もたくさんあったように伺っています。それぞれの学校で、工夫はしているのですが、かなり厳しい状況を作っており、無理をしていたものが多かったために、継続が難しかったのではないかと推察します。「SDGs」は「持続可能な開発目標」とされています。無理な状況を継続するのではなく、「視点を変えること」や「少しの心がけでできること」を通して、この南古谷中学校が保護者の皆様にとっても、子どもたちにとっても、安心できる場所であってほしいと思います。そして、本校が「入学前は憧れをもち、在学中は誇りをもち、卒業後は愛着をもつ」保護者の皆様や地域の方から信頼される学校であってほしいと願っています。